

芝草品種のご紹介

雪印種苗(株) 研究本部

北海道研究農場 作物研究室
千葉研究農場 作物研究室

入 山 義 久
立 花 正

1 はじめに

国内のゴルフ場やサッカー場、公園や一般家庭で使用されている芝草は、大きく分けて寒地型芝草と暖地型芝草の2つに区分されます。寒地型芝草は、北海道、東北、府県の高冷地で、暖地型芝草は、東北から関東以南で使用されています。

寒地型芝草は一般的に越冬性が高く、寒冷地での厳しい冬を越すことができますが、逆に夏の暑さに弱いため、府県では越夏できない品種もあります。

一方、暖地型芝草は越夏性が高く、夏のターフクオリティ(芝質)は良好ですが、冬期に緑度が低下し休眠してしまいます。このため、府県のゴルフ場やサッカー場など、年間を通じて緑度が必要な場合は、暖地型芝草の上に冬期間、一時的に寒地型芝草を生育させる「ウインターオーバーシード」が実施されています。

殆どの芝草品種の特性については、アメリカを中心とした海外での試験データが、容易に入手できるようになったことから、品種導入の際の判断材料として活用されています。しかしながら、高温多湿な国内での栽培試験と、データが提供される海外での試験では、環境が全く異なるため、やはり国内での栽培試験が必要と考えられます。このため、当社では地域性を考慮し、北海道、千葉県、宮崎県に研究農場を配し、各地で使用できる芝草品種の開発を行っております。これらの研究開発の成果として、優良な特性が認められ、自信を持ってお勧めできる販売品種について、今回ご紹介させていただきます。

2 寒地型芝草

1) ケンタッキーブルーグラス

ゴルフ場、サッカー場、公園、家庭芝など、寒地型芝草の中でも最も多くの分野で、広く利用されている草種です。ケンタッキーブルーグラスは地下茎によって旺盛に繁殖し、地表を密に覆う性質を持っており、芝生の傷の回復も速やかです。低温に対する抵抗性が高く、逆に高温にはあまり強くない草種ですが、近年は温暖地の夏期においても、密度の低下が少ない品種が開発されています。また、草丈の伸びも他の草種に比較して少ないことから、最近話題の校庭緑化にも使用できると考えられます。

パーティティア(写真1)

ケンタッキーブルーグラスの中で、地下茎の広がりが最も旺盛な品種で(図1)、密度も高く、また障害からの回復が早期に見込める品種です。葉色は濃緑色で、葉幅はやや細く、耐病性が優れ、特にサビ病に対して強い抵抗性を持っています。低刈りに対する抵抗力もあり、ターフクオリティが良好な、美しいターフが形成されます。



写真1 「パーティティア」ケンタッキーブルーグラス

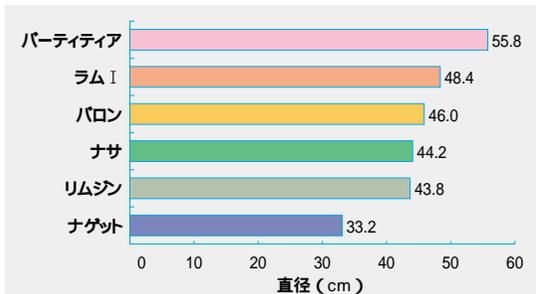


図1 ケンタッキーブルーグラス播種2年後の地下茎の実測値

アブソルート (新品種)

北海道研究農場における栽培試験の結果、年間を通じて安定的に密度を保ち、また、秋口のサビ病に対する抵抗性が優れていることから、00年より販売を開始したミレニアム品種です。ターフクオリティも良好で、葉色は濃く、葉幅はやや広い品種です。北海道における越冬性が良好で、春先も良好に萌芽します。

アワード

千葉研究農場および宮崎研究農場における栽培試験の結果、ケンタッキーブルーグラスの中で最も耐暑性に優れる品種がアワードでした(図2)。一方、北海道研究農場における栽培試験では、越冬性も良好であり、寒冷地から温暖地まで、幅広く利用が可能な品種です。葉色は濃緑色で、葉幅は中庸、密度、ターフクオリティは、低刈り、高刈りともに良好で、ゴルフ場を始め各種スポーツターフ、公園など、多目的に利用できます。

リムジン

葉幅が極めて細く、密度が抜群に高い品種で、最高水準のターフクオリティを維持することができます。低刈り抵抗性が高く、刈高10mmで刈取りを続けても衰退しないため、パークゴルフ場のグ



写真2 「アウリッド3」^{スリー} トールフェスク

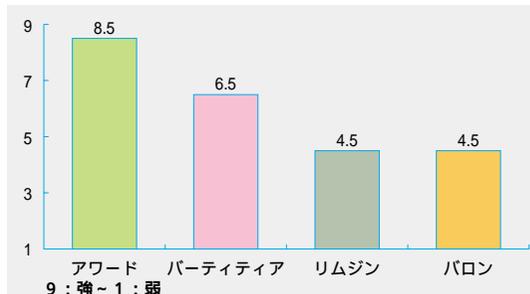


図2 ケンタッキーブルーグラス耐暑性の比較 (1991~98年、千葉県)

リーンなどでも使用できます。伸長量が少なく、刈取り作業の省力化が図れますが、肥料要求量が高い品種です。

2) トールフェスク

寒地型の芝草ですが、耐暑性もあり、温暖地での利用価値が高い草種です。地下茎は持たず、株状で、分けつによって繁殖します。芝質は粗剛ですが、根が深く、根張りも強いことから、競技場や競馬場で利用されています。また、耐旱性が強く、土壌を選ばないため、法面緑化などにも適します。

アウリッド3^{スリー} (新品種) (写真2)

アウリッド3は、草丈が低く、ターフタイプ(芝生用)に改良された品種です。葉色は従来のトールフェスクよりも濃く、また、葉幅はより細く改良されています。密度、ターフクオリティは、年間を通じて良好です。発芽、初期生育も良好で、越冬性、越夏性にも比較的優れています。

ピクシー

葉幅が細く、密度が高いため、濃緑色で均一な、美しい芝生を形成します。耐病性に優れ、ブラウンパッチに対する高い抵抗性を持っています。

3) ベレニアルライグラス

冬期間の凍結や夏期の高温に弱く、比較的短命な多年生の草種です。地下茎を持たず株状で、分けつによって繁殖します。低温期でも生長できるため、晩秋から初冬まで緑度を維持することが可能です。寒冷地で利用される場合には、通常単播での利用は少なく、発芽、初期生育が早い特徴を生かし、芝生の仕上がりを早める目的で、他草種に混播して利用されます。また、府県においては冬期間の緑度保持を目的に、既存の暖地型芝生に播種する、ウインターオーバーシードに多く利用

されています。

アクセント (新品種)

ペレニアルライグラスの中で、最も耐暑性に優れる品種です(写真3)。また、北海道における越冬性や萌芽も良好で、寒冷地から温暖地まで利用できる広域適応品種です。葉色は濃緑色で、葉幅は細く、密度、ターフクオリティは、低刈り、高刈りともに年間を通じて一定し、高い水準を保ちます。

マンハッタン^{スリー}

従来販売されていたマンハッタン を改良した品種です。葉色はマンハッタン より濃く、葉幅はより細くなっています。耐暑性も改良され、踏圧に対する抵抗力が強く、密度の高いターフを形成します。

ビビットグリーン

府県におけるウインターオーバーシード専用のペレニアルライグラスです。耐暑性が最も弱く、既存の暖地型芝生へのトランジションがスムーズに行えます。葉色は明緑色で、冬期緑度が良好です。

スリークオーター (新品種)

ウインターオーバーシード専用の品種。ビビットグリーンに比較して葉色が濃く、ターフクオリティもより向上した品種です。02年秋からビビットグリーンの後継品種として販売開始予定です。

4) アニユアルライグラス

フェアウェイ

ウインターオーバーシード専用の1年生のライグラス。トランジションが容易にできることから、ティフトン芝をはじめノシバやコウライシバに対しても、安心して使用できる品種です。単播のほか、ビビットグリーンとの混播で使用される



写真3 「アクセント」ペレニアルライグラスの中で耐暑性に強い

場面も多く見受けられます。

5) ベントグラス

ベントグラスは、ゴルフ場のグリーンを中心に使用されますが、管理には高度な技術が必要となります。ベントグラスには、ほふく茎を持つクリーピングベントグラス、ほふく茎をほとんど持たないコロニアルベントグラスなどがあります。

バター (クリーピングベントグラス)

密度が高く、パッティングクオリティの高いグリーンを形成します。耐病性、越冬性に優れ、濃緑色で、鮮やかなグリーンが仕上がります。

コブラ (クリーピングベントグラス)

耐暑性が抜群で、北海道南部から府県で幅広く利用されています。葉色はバター並の濃緑色で、ほふく茎が良く伸長し、ターフの傷が早期に回復します。

6) ファインフェスク (細葉のフェスク)

ファインフェスクは、低刈りしない条件下では、耐旱性が高く、また、肥料要求量の少ない草種です。ファインフェスクには、地下茎を持つクリーピングレッドフェスク、地下茎を持たないチューイングフェスク、環境適応性が高く、株状を呈するハードフェスクなどがあります。

パークラウン (チューイングフェスク) (写真4)

クリーピングレッドフェスクとの中間型で、地下茎を持っているため、密度が高く、高いターフクオリティを維持できます。低刈り抵抗性が抜群に強く、耐病性も優れています。また、草丈の伸びも少ないため、家庭用の芝生としての利用もお勧めします。葉色は淡く、均一で繊細なターフを形成します。



写真4 「パークラウン」チューイングフェスク

クリスタル（ハードフェスク）

耐旱性、耐病性が極めて優れ、やせた土壌でも良好に生育します。また、矮性タイプのため、刈取り管理や灌水作業、施肥管理などの省力化が図れるローメンテナンスな草種で、植生用品種としてお勧めです。濃緑色で密度の高いターフを形成しますが、極端な低刈り管理には適しません。

3 暖地型芝草

1) バミュダグラス

バミュダグラスは、旺盛な地上ほふく茎で繁殖し、ノシバより速やかに芝生を形成する草種です。踏圧、すり切れに対する抵抗力が優れており、暖地の競技場での利用が増えています。近年になり、種子繁殖型の品種も開発されていますので、ご紹介させていただきます。

サンデビル（新品種）（写真5）

従来のバミュダグラスに比べて草丈の伸びが少なく、濃緑色で密度が高い品種です。種子で芝生が造成でき、芝生の造成コストを安価に抑えることが可能です。ノシバに比べて、生育が速やかで、耐病性、踏圧やすり切れに対する抵抗性も優れています。

2) センチピートグラス

ノシバに似た、葉幅の広い丈夫な芝生を形成します。センチピートグラスの地上ほふく茎は、一夏に長さ1.5～2.0mまで伸長するため、密度が高く、雑草の侵入も抑えることができます。ノシバに比較して発芽、初期生育は早く、また、芝生の形成も早いことからノシバに代わる草種として注目されています。耐暑性、耐病性、耐虫性が高く、主に暖地のゴルフ場のラフ、公園、法面緑化などに適します。



写真5 「サンデビル」バミュダグラス

3) ダイカンドラ（写真6）

ヒルガオ科アオイゴケ属の地被植物で、地上ほふく茎によって旺盛に広がります。草丈は低く、葉はシロクローバに似て、芝生のように短く刈り込むことができます。芝草に比べて生長が遅く、管理も容易なことから、一般家庭や庭園など、イネ科の芝草にこだわらない場所にお勧めです。なお、寒冷地では越冬性が劣る傾向があり、主に関東以西での利用が主体です。

4 おわりに

多くの人々は、芝生は造成さえしてしまえば、後は手を掛けずに、勝手に生えていると考えているようです。最低限の芝生の管理としては、施肥と刈り込みがあります。施肥は通常、月1～2回、1回当たり窒素成分量で2～4g/m²（成分割合8～12～10%の化成肥料で30～40g/m²）程度を散布します。刈取りは草丈に応じ、週1～2回以上行います。まめな刈取りは、芝草の分けつとほふく茎の発生を促し、密度を高める効果もあり、結果的に雑草の侵入を軽減することができます。また、必要に応じ、散水、雑草や病害の防除、目土やコアリングなどの更新作業も行います。

欧米など古くから生活の一部に芝生が存在する国々では、造成してから数十年が経過する芝地が数多くあります。芝生は一度造成すると、その寿命は50～100年以上と言われていますが、これは、最適な生育環境で、適切な管理を行った場合の話と考えられます。手の掛けられる範囲で、芝生に最低限の手入れをしてあげれば、芝生は美しい環境を提供してくれるものと思いますし、品種の持っている力もより発揮されると考えます。

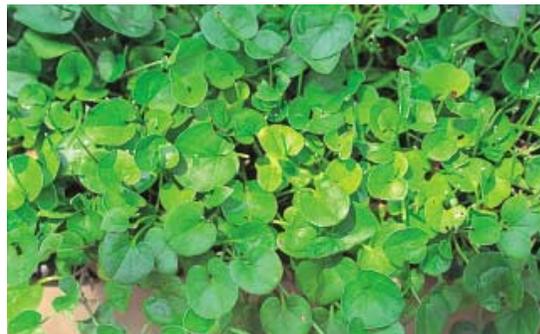


写真6 ダイカンドラ